

## 昇天を認識する

聖書：使徒 2:36．ヘブル 2:9．4:14-15．7:26．12:2．エペソ 1:19-23．2:6

- I. 人・救い主の昇天は、彼の天の職務に就任することであり、それは、創造、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活の過程を通してであり、神また人として、創造主また被造物として、贖い主、救い主、命を与える霊としてであり、神の行政を執行し、神の新約エコノミーを完成するためです。
- II. わたしたちは、主の昇天の客観的な面を見る必要があります：
- A. 主はご自身の昇天によって、栄光と尊貴を冠として与えられました——ヘブル 2:9：
1. 栄光は、イエスのパーソンに関する輝きです。尊貴は、イエスの価値に関する尊さです——I ペテロ 2:7。
  2. キリストは、状態において栄光であり、地位において尊貴です。彼はすべての王や支配者の上にあります。これが彼の尊貴です。
- B. 主はご自身の昇天によって、神の行政のために御座に着きました。ヘブル第12章2節は、キリストが今や神の御座の右に座していると言っています：
1. 神がキリストの中で御座に座しているという事実は、神がキリストの内側から、またキリストを通して全宇宙で行政を執行していることを意味します。それは光がともし火の内側から、またともし火を通して輝くと同じです——啓 22:1, 3. 参照、21:23。
  2. キリストは今や御座の上において、全宇宙で行政を執行しています。彼は唯一の行政執行者、王の王、主の主です。彼は地上の諸王の支配者です——1:5. 17:14. 19:16。
  3. キリストが行政を執行することは、宇宙と関係があります。しかし彼が神の新約エコノミーを完成することは、ご自身を増殖し、彼を複製して、召会、彼のからだを建造することです。その結果は新エルサレムです——参照、使徒 5:31。
- C. 「イスラエルの全家は、確かに知っておきなさい。あなたがたが十字架につけたこのイエスを、神は主またキリストとされたのです」(2:36)。この節の「された」という言葉は、「就任した」を意味すると理解することができます。キリストの昇天において、神はキリストを彼の天の務めに就任させました：
1. 人・救い主は、ご自身の昇天において、万物を所有する主とされました。彼は今や、全宇宙、神の選ばれた民、すべての積極的な物、事、人を所有する主です。
  2. 人・救い主は、ご自身の昇天において、神の油塗られた方(ヘブル 1:9)と

してのキリストとされました。それは神の使命を完成するためです。

D. わたしたちは今や、キリストの復活と昇天におけるキリストと一です(エペソ 2:6)。その結果、わたしたちは復活における命と力を持ち、昇天における権威も持ちます。わたしたちは、わたしたちの主と接触するとき、彼が何であるかを認識し、また彼の身分、地位、職務を認識する必要があります。

Ⅲ. わたしたちは、主の昇天の主観的な面を見る必要があります——参照、詩 91:1. 雅 4:7-8. 6:10:

A. キリストは、すべてを超越する彼の昇天において、ハデス[<sup>よみ</sup>陰府](死んだ人々が拘留されている所)、地(墮落した人々が神に敵対して行動している所)、空中(サタンと彼の暗やみの勢力が神に敵対して活動している所)、すべての天(サタンも行くことのできる所——エペソ 1:20-21. 4:8-10. ヘブル 7:26. ヨブ 1:6-12 前半. 2:1-6)を超越しました。

B. キリストは、ご自身の昇天において天を通過して行ったので(ヘブル 4:14)、今や彼は天にいただけでなく(9:24)、天より高く(7:26)、すべての天よりもはるかに高いのです(エペソ 4:10)。

C. エペソ第1章19節から23節は、昇天したキリストからわたしたちに対する伝達があることを啓示しています。22節は、神はキリストを「万物の上にかしらとして召会に」与えたと言っています。「召会に」という句は、昇天したキリストから召会、彼のからだに対する伝達を示します:

1. 神は、昇天したキリストに、大いなる賜物、すなわち万物の上ある頭首権を与えました。神がキリストをかしらとしたのは、召会にです。それは召会に伝達されており、召会はそれにあずかっています。
2. 20節から22節は、四つの段階において神がキリストの内にその力を働かせたことを見せています。第一は、彼を死人の中から復活させたことです。第二は、彼を天上で神の右に座らせたことです。第三は、万物を彼の足の下に服従させたことです。第四は、彼を万物の上にかしらとして召会に与えたことです。

D. キリストは彼の昇天において、彼のからだである召会のかしらとされました。それは彼の豊満の中で神を表現するためです——コロサイ 1:18. エペソ 1:23. 3:19:

1. かしらとからだは一であり、宇宙的な人を形成します。この神聖な事柄には、空間の要素も時間の要素もありません。からだは神聖な命において、また神聖な霊においてかしらと一です。

2. 神聖な観点によれば、わたしたちは昇天したキリストと一であり、彼の昇天はまたわたしたちのものです(2:6)。ここでこの昇天において、わたしたちは彼の豊満において彼を表現します。超越しているキリストは三一の神の具体化(コロサイ 2:9)であるので、彼の超越している伝達は三一の神のすべての豊かな分与を含んでおり、それはわたしたちをキリストの豊満とならせ、彼を表現します(エペソ 1:22-23, 3:19, 8)。

E. キリストは彼の昇天において、天における大祭司ともされました。彼は神の臨在の中でわたしたちを担い、またわたしたちのすべての必要を顧みます。彼は昇天において彼の祭司の職務に就任しました——ヘブル 2:17-18, 4:14-15, 詩 110:1-4, ヘブル 5:6, 7:26 :

1. 一方でキリストは、天において諸召会のためにとりなしている大祭司です(25-26 節, ローマ 8:34)。もう一方で彼は、諸召会において行動しそれらを顧みている大祭司です。啓示録第 1 章 13 節において、キリストは大祭司として描写されています。それは彼の衣によって、すなわち、足まで垂れた衣である祭司の上服によって示されています(出 28:33-35)。
2. 啓示録第 8 章において、キリストは金の香壇で香をささげる祭司として啓示されています。「もうひとりの御使いが来て、金の香炉を持って祭壇の所に立った。多くの香が彼に与えられたが、それはすべての聖徒の祈りと共に、御座の前にある金の香壇の上にささげるためであった」(3 節)。

IV. わたしたちは、自分が主の昇天の中にいることを見る必要があります——エペソ 2:6 :

- A. 恵みの時代全体は、主の昇天の時期です——1:20。
- B. キリストは昇天の中だけでなく、わたしたちの中にもいます——コロサイ 1:27。
- C. キリストは依然として、ご自身の昇天において行動しています。彼は、ご自身の昇天において生活し、住み、とどまり、供給し、奉仕し、働き、行動しています：
  1. 彼は、ご自身の昇天において、わたしたちの中にいます。こういうわけでパウロは、キリストの昇天において、わたしたちがキリストと共に座していると、わたしたちに告げています——エペソ 2:6。
  2. わたしたちの存在の中には、特別なパーソン、すなわち昇天したキリストがいます——コロサイ 1:27, エペソ 2:6。
  3. 主は今日、ご自身の昇天において、わたしたちの霊の中にいます——II テモテ 4:22 前半。

4. 三一の神は、この昇天において、わたしたちの中で行動し、この行動はわたしたちの歴史となります。
5. キリストは三一の神の具体化であり、わたしたちは彼の昇天において、この具体化の一部です——ローマ 8:10． IIコリント 13:5． ガラテヤ 2:20． 4:19． コロサイ 2:9。
6. わたしたちがキリストの御名の中へと共に集められているときはいつでも、キリストは昇天において、ご自身のすべての肢体と共にそこにいます。これは、人の内側における神の行動です——マタイ 18:20． コロサイ 3:1, 3-4． エペソ 1:20． 2:6。

*©2023 Living Stream Ministry*